

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・12月に入って商店街の来客数が増えてきた。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今年、歳末謝恩セールを実施した影響で来客数が大幅に増えた。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・12月後半は、年末の商店街の雰囲気や新しい食材を求めて、他の地区や市外からの客で混み合う。しかし、29～31日になると近くのスーパーの商品がタイムサービスで半額まで下がるため、商店街への客足が消えてしまう。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	来客数の動き	・来客数も増えているが、高額商品ほどよく売れている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・景気は全体的にみると良くなっているようだが、収入格差が広がっている。当店も、顧客の収入を考慮した価格帯での商売が必要となる。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・関連店舗の売上は、前年比で98～105%と3か月前と比較してやや良い状況にある。12月前半は気温等の関係で落ち込んでいたが、中旬以降衣料品が回復している。1品単価は非食品が104.1%、食品が103.2%、購買客単価は非食品が103.2%、食品が102.2%と若干購買数量が減っているものの、ここ2～3か月では一番良い。
		スーパー（店長）	単価の動き	・ギフトの売行きが悪く、客数もそれほど増えていない。しかし、買上量の増加により客単価が非常に上がっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・食品を中心とした身の回り品の売上が、昨年を上回るようになってきている。特にギフトや加工品が好調に動いている。
		衣料品専門店（チーフ）	お客様の様子	・インバウンドの客が頻りに流れてきているため、売上が前年よりも大幅に伸びている。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前年同月比で約105%と伸びている。個人用のコーヒーの販売量も若干増えている。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・来客数が多い。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・総選挙も終わり年末にかけ来客数が増えている。客単価もわずかではあるが高くなっている。客から景気が悪い話は聞かない。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・レストラン、忘年会、宿泊ともに前年の売上を上回っている。
		都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・今月は宴席、婚礼、宿泊ともに売上増になる予定である。おせちやケーキなどの販売も締切予定日より早く完売したこともあり、少し景気が良いようだ。
		都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・特に東南アジアを中心にインバウンドの客が非常に増えている。単価も非常に高くなっている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売量はお歳暮シーズンで底上げされており、想定をやや上回った。
		通信会社（営業）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減により、昨年と同水準かやや冷え込むと考えていたが、問い合わせ、販売量共に前年を大きく上回った。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・不動産は総選挙の影響もなく、来客数も前月とほぼ変わらない。しかし、住宅分野の需給関係は供給過多となっている。
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き
		商店街（代表者）	お客様の様子	・購買する人が多くなく、安い商品を試着しても購買まで至らないという状況は変わっていない。購買力のある人、ない人が分かれています。格差が非常にはっきりしてきました。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・例年に比べ寒波の訪れが早く、冬物商品の動きが活発になっている。客は消費税増税の負担感にも慣れ、再増税が先延ばしになったこともあってか、売上も順調に推移している。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・年末の書き入れ時というのに客が来ない。

一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	単価の動き	・年末だが売上は例年と変わりではなく横ばいである。単価は毎年減少し贈答も減っている。消費税増税の影響か、年末にまとめ買いする客の購入量も少なめである。
百貨店（総務担当）	販売量の動き	・ボーナス支給月で例年活気が見える月であるが、前半は、総選挙の影響で宴会予約のキャンセルなどがあり、来店客数が減少した。中盤以降、盛り返す力が全くみえない。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・年末商戦、お歳暮ギフト、クリスマスの影響でレジ客数、1品単価が上昇し、3か月前と比較すると売上は微増となった。お歳暮ギフトの単価は維持したが、1人当たりの買上点数は減少した。しかし店外での受注は増えた。店頭では、化粧品、婦人雑貨、スカーフ手袋の自家需要及び快眠商品、ナイトウェア、寝具が好調であった。
百貨店（営業統括）	来客数の動き	・お歳暮ギフトの売上は、新規顧客数増でどうにか前年を上回った。一方、衣料品関連はミセスを中心に不振である。メインターゲットの50～60代顧客の来店・購買が例年に比べて厳しい。
百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要が始まった前年に比べ、高額品の動きが鈍い。毎年買うわけではない商品を中心に、昨年の反動が出ている。一方、防寒商品は健闘、11月に一旦冷え込みが緩んだが12月は月初めより寒波となり活発に動いた。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・12月中旬までは総選挙の影響により、売上、来客数ともに厳しい状況にあったが、中旬から後半にかけて買いが戻ってきている。ただ、必要なものを吟味して買う姿勢に変化はなく、高額の商品については、割引を待って買いたいと言う客が多い。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・年末になり、高額商品になるほど消費税を計算し、客の購買に時間が掛かっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・大きな流れとしては3か月前と変わっていない。
スーパー（店長）	単価の動き	・全体的な野菜の相場安で単価が落ちている。精肉は相変わらず単価高で売上は好調に推移している。
スーパー（総務担当）	それ以外	・食料品の売上は前年を大幅に上回っているが、衣料品の前年割れが続いている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・12月半ば以降寒さも本格的になり、冬物商材の動きが良くなってきている。衣料品やおでん・鍋商材などは特に好調だが、青果物・米は単価が安く、販売点数は前年を超えているが販売額は大きく下回っている。
スーパー（業務担当）	来客数の動き	・お歳暮ギフトは売上・客数ともに例年並みの結果で終息し、安定した売上を確保できている。ただし、青果の品薄や防寒衣料の低迷は真冬が近づいても好転せず、やや低調が続いている。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・コンビニの客は目的買いが中心であるが、景気が良いときはついで買いもある。しかし、最近は、不要、不急の物は絶対買わない状況にある。クリスマスケーキの予約数は、前年に比べて非常に低調であった。客は景気が良いと実感しておらず、財布のひもが更になくなってきている。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・年末に入っても客の財布のひもは固く、必要な物以外は買わない状況である。客単価のアップはほとんどない状況である。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・今月の量販店、コンビニエンスストア、ローカルスーパーの販売量の平均値は前年比103.7%と、ほぼ横ばいであった。店頭予約・販売量が少なく、クリスマスケーキが前年比1割減となった。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客の様子から消費税の影響は余り感じられない。落ち込みもなく売上は以前と変わらない。景気に変化がない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・12月の前半と後半に商店街で売出し企画を催すも客足が悪い。選挙期間中は毎回運動員の動きがあるが、今回の総選挙は人の動きが全くみられなかった。
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・目的買いの客が目立ち、フリーの買い回り客が少なかった。固定客の売上は前年並みだったが、フリーの客数が伸び悩み前年割れの売上だった。ここ数か月その状態が続いている。

衣料品専門店 (取締役)	それ以外	・12月後半から一部セールに入っているが、まとめ買いというよりも必要な物だけ買う状況である。1点当たりの利益率が低く、薄利多売の状況である。景気が良くなっているとは言えない。	
衣料品専門店 (総務担当)	お客様の様子	・当店の主力である高年齢層の価格帯上位の衣料において、客は非常に慎重な購買態度で、気に入ってもなかなか買ってもらえないという状況が続いている。	
家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・小物商品の動きは年末らしくなってきたが、大物商品の動きが鈍い。消費税増税の影響が依然として続いている。	
家電量販店(広報・IR担当)	販売量の動き	・当月は繁忙期であるため、来客数や販売量は増えているが、前年の売上を確保するのは厳しい見込みである。	
乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・消費税増税以降、新車の販売が伸びない。いつまで続くのか不安になる。	
その他専門店 [ガソリンスタンド](統括)	お客様の様子	・燃料油の小売価格は下げ基調がはっきりとし、ガソリン価格は130円台の看板が出始めている。顧客との会話から、総選挙が実施された12月前半は、飲食等の消費を控えていた様子が見え始める。後半は、燃料油を満タンで購入する顧客がやや増加した。	
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター](統括者)	販売量の動き	・インバウンド効果の高い施設では、売上が増加しているが、インバウンドを取り込めていない施設では、ほぼ前年並みで推移している。	
その他小売 [ショッピングセンター](広報担当)	販売量の動き	・寒波による客数及び売上の伸びがみられない。一部は動くが、防寒衣料の動きが鈍い。クリスマスも客数、売上ともに動きが鈍い。	
高級レストラン (専務)	来客数の動き	・年末にかけて忙しくなると予想したが売上は伸びなかった。まだ景気が悪く、飲食にお金が回ってきていない。	
居酒屋(経営者)	来客数の動き	・総選挙の影響もあり、忘年会のシーズンのわりに静かな年末であった。	
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・稼働率も高い水準で維持できており、今後も失速する気配はない。	
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・年末年始の旅行は、海外を見送り国内にするケースが多く、取扱人員に比べ売上減少が目立つ。	
タクシー運転手	来客数の動き	・12月前半は総選挙のため忘年会が少なかった。後半にいくらか盛り返したが、それでも前年並みにはいかなかった。	
タクシー運転手 タクシー運転手	お客様の様子 来客数の動き	・夜のタクシー利用が多くても、昼が極端に悪い。 ・今月前半は総選挙の影響で、景気や人出が停滞していたものの、後半は、ガソリン価格の下落もあり、忘年会、年末の買物等、盛況を取り戻した。	
通信会社(業務担当)	販売量の動き	・12月は商戦期で商品入荷数は問題ないが、今ひとつ客へのインパクトが弱く、販売数があまり伸びていない。	
ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・年末にかけて県外客の予約が結構入っており客単価も高い。地域柄、ボーナス支給後の地方公務員、団体職員等の利用も少し増えたが、他の客は昨年と比べると少ない。総体的には微増しているが、思うように伸びなかった。	
美容室(経営者)	販売量の動き	・12月の繁忙期にも関わらず横ばいが続いている。総選挙の影響が景気は低迷している。	
美容室(店長)	来客数の動き	・例年と変わらない年末である。景気はあまり変わりが無い。	
設計事務所(所長)	販売量の動き	・年末を迎えるので官公庁発注の工事が非常に少なくなっている。また、民間も住宅の着工件数が落ち込んでいる。	
やや悪くなっている	百貨店(企画)	単価の動き	・来客数は順調に前年を上回っているが、単価が上がり、売上が伸び悩んでいる。
	スーパー(店長)	競争相手の様子	・青果は相場安のため、前年比87~88%で推移している。競合店が2店舗できた影響で、酒が同93%、一般食品のドライグロッサリーが同94%、その他同97%で推移している。
	コンビニ(店長)	販売量の動き	・売上は前年比でマイナスである。
	家電量販店(店員)	販売量の動き	・消費税増税後、9~11月の売上は前年を割っていたが、12月になって少し良くなってきた。

		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・4月以降、受注が伸びず赤字に転落した。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・総選挙や消費税の増税見送りなどによる消費の不服感で、来客数が減っている。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	単価の動き	・お歳暮商戦も終わり、前年比92～93%の売上となった。総体的に商品単価の下落が見受けられた。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・12月前半は会社関係の忘年会はあったが、総選挙の影響で全体的に動きが鈍く悪かった。後半は結構忙しくなったが、前半の出遅れを取り戻すのは難しく、例年に比べると悪かった。
		音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・受験期に備えてピアノのレッスンをやめる子どもが出てきている。
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・総選挙後ボーナス商戦に入るはずが、来客数、販売数ともに激減している。
		高級レストラン（社長）	来客数の動き	・総選挙の影響で客が非常に減った。
企業動向関連 (九州)	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・12月前半は原料不足であったが、後半は原料の手当でもつき、取引先からの要望に8割方対応できた。しかし、宮崎の鳥インフルエンザの影響で、一部原料出荷ができなくなり、終盤取引先に迷惑をかけた。販売の引き合いは居酒屋、スーパー、加工メーカー等順調な動きである。
		農林水産業（営業）	取引先の様子	・小売店で少しずつ良いものが売れていると聞く。
		金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・取引先の受注残や引き合いが増加している。工事延期の影響は大きいですが、今後は良くなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・社内における理念の追求、ものづくりに対する教育などが功を奏し、経営がやや良くなっている。
		電気機械器具製造業（取締役）	競争相手の様子	・当社も繁忙であるが、同業他社も上向きである。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・企業活動では資金繰りにやや余裕が出てきた。個人においてはボーナス急騰により家計に余裕が出てきた。
		経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・企業の新商品開発が進み始めた。
	変わらない	食品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・比較的好調に販売できた。
		繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・下請工場では給料が安く人気がないため、従業員は募集しているが集まらない。従業員は少しずつ減少しているが、仕事の受注が増えてはならないため、営業上問題は無い。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年の後半は受注量が増えて、今月も年を越した受注がある程度来ている。今まであまりなかったような状況で、販売量も前年比で若干増加している。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不安定な要素が多いため、受注量が確定しないのが一番の悩みである。採算ペースはそれなりであるが、受注量が不足しているため、景気が良いという感覚になれない。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年の年末駆け込み受注があまりみられなかった。
		その他製造業（産業廃物処理業）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格は相場通り上がっておらず、仕入れ価格だけが高騰している。販売先が今の経済状況を信用していないため、相場通りの価格を支払うのに不安を抱えているのが原因だ。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕事の案件数がほとんど変わっていない。
		輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・総選挙もあり荷動きは良くない。本来12月は繁忙期であるが、年々通常月と変わらなくなっている。
		通信業（経理担当）	それ以外	・消費税増税後の買い控えムードが続いている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・消費税増税前の駆け込み需要の反動が残っている住宅や自動車の売上は、前年を下回っている。一方、一部業種では人手不足感が強まっているなど、労働需給は改善傾向にある。百貨店、スーパー等の売上も回復してきている。

	金融業（営業担当）	取引先の様子	・小売、飲食、卸売等の中小企業は、円安及び消費税増税の影響により、売上・利益ともに低迷が続き、資金繰りもタイトである。	
	金融業（営業）	取引先の様子	・製造業の受注状況は、昨年より高い水準にあるが、ここ数か月大きな変化はない。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・チラシ配布などの営業活動を実施しているが、反応が少ない。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先から最近の状況を聞くと、ほとんど変化がないという回答が多い。	
	その他サービス業【物品リース】（支社長）	取引先の様子	・当社では補助金を活用した省エネファイナンスの提案を行っているが、設備投資には前向きな企業が見受けられる。これからアベノミクスに便乗できる企業とそうでない企業との差が広がる。	
やや悪くなっている	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・3か月前に受注できた工事があるので、仕事量としては悪くはないが、収益については未定である。10月に工事の積算方法が変更になり、不明な部分も多く苦慮している。また、発注量は激減している。	
	新聞社（広告）（担当者）	受注量や販売量の動き	・総選挙に伴う政党広告など、一過性の広告出稿により売上は前年比116%とプラスだが、選挙関連を除くと前年比80%と大幅減となっている。主力の通販、旅行が前年比80%台と低調で、その他の業種も広告出稿には消極的である。	
	その他サービス業【設計事務所】（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村の12月の補正予算は、建設関係の予算が少なく、委託や工事発注が減少している。いくつかの入札で、低価格で応札する業者が出てきている。建設需要が落ち着いたため、手持ちの業務が少なくなり、仕事を取りに行っている。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	良く なっている	-	-	
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・企業の採用意欲は増している。従業員だけでなく経営に関わる役員クラスを求める声も多いが、専門人材が足りていない。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・短時間勤務の派遣依頼が若干増加している。フルタイムまでの仕事はないが、少し忙しいという状況である。
変わらない		人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・特にサービス関連を中心に幅広い業種での人材不足は変わらない。しかし、景況感的に変化がない。
		新聞社【求人広告】（担当者）	求人数の動き	・求人数は人手不足を背景に増えている。特にインターネットのサイト作成業務などの伸びが著しい。
		職業安定所（職員）	それ以外	・新規求人倍率は上昇傾向にあるものの、有効求人倍率はあまり変わらない。また、求人を出しているものの、人手不足により店舗を閉鎖せざるを得ない企業がある。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・事業所訪問の際の聞き取りにおいて、前月と変わらず、円安に伴う原材料費の高騰等を懸念する声が多く聞かれる。また、有効求人倍率は上昇したが、有効求職者の大幅な減少が主な要因であり、求人数は微増の状況にある。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・景気が良いため、新規求人件数増加と比較し就職件数は伸びていない。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・12月の求人数は前年同月比3%減であった。1月以降の求人数も芳しくない。派遣労働者の採用よりも、直接雇用のアルバイト、パート社員の需要が堅調である。
		学校【大学】（就職支援業務）	採用者数の動き	・今年度卒業予定者の就職活動がほぼ終了した印象が強い。
	学校【専門学校】（就職担当）	求人数の動き	・求人数は先月同様前年比110%で推移しており、変化はない。	
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は昨年より上回っているものの、ここ数か月のトレンドをみると、昨年並みに落ち着いてきているようだ。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・生命保険会社などのコールセンター進出が相次いでいるので人手不足感はあるものの、その他の業界での人材採用は低調である。	

	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・当社の求人取扱件数が前年比10%近く落ちている。当社の主な取引先は地元のサービス業であるため、民需が停滞しているか大手に売上を吸収されているかが考えられる。
	新聞社〔求人広 告〕（担当者）	求人数の動き	・総選挙の影響か12月の求人広告は激減した。地域中小企業の景気は回復しておらず、年明けの動きも弱い。U・I・Jターンを希望する既卒者向けの求人広告の動きがあった。
悪く なっている	-	-	-